

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500237		
法人名	医療法人 加茂医院		
事業所名	グループホームやすらぎの丘		
所在地	佐賀県伊万里市大坪町甲2269-6		
自己評価作成日	平成22年10月13日	評価結果市町村受理日	平成22年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院であり毎日の看護師の訪問。24時間の医療体制。ターミナルの受け入れ。利用者主体の介護。調理師による食事環境。(Bユニット)大きな行事には、運営推進委員の方を招待し、利用者の方の様子や職員の関わり方を直にみて頂いています。母体の病院との連携が取れており、状態の変化時には早めの対応ができています。元気な方は食事に行ったり、ドライブに出かけ四季を感じて頂いています。利用者の方と職員が家族の様な関係で利用者の方から知恵を頂いたり、毎日笑顔が絶えない場所です。(Aユニット)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた閑静な住宅地に位置し、市街地に近く、病院やスーパーなど車ですぐのところにあり利便性に優れている。「真心・やすらぎ・思いやり」を理念とし、入居者の個々の希望や思いを大切にしながら、地域に根ざした支援が行われている。また、母体病院との連携が良好で、ターミナルの受け入れや日々の医療管理が行き届いていた。各スタッフは、「働きやすい。言いたいことが言える雰囲気である。」との意見が大半で、スタッフ間や管理者との人間関係は良好であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	Aユニット	Bユニット		Aユニット	Bユニット
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は朝礼時に唱和を行って、認知症介護について共通理解を行って実践している。	やすらぎの丘の理念のみで、地域密着の理念はない。	朝の申し送りや、施設の理念である「真心・やすらぎ・思いやり」と認知症介護理念を唱和し、実践に活かすように努力している。また、理念を掲示することで、常に意識するよう工夫されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎朝、道路の清掃を行ったり、夏祭りを開催し地区の方も参加している。気候が良い時は近所の公園を散歩している。	区の祭りやくんち等には参加又ホームの夏祭りには地域の方が参加される。	散歩に出掛けた時には、住民と挨拶を交わしたり、道路の清掃を行っている。施設主催の夏祭りには、多くの住民が参加され、入居者の家族が出し物を披露することもあり地域の恒例行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌により入居者の方の生き生きとした表情や楽しく生活している様子を見て頂いている。中学生の職場体験時に認知症をきちんと理解して貰うように事前研修を行った。	運営推進会議に参加の方や広報誌にて地域の方に配っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、入居者の方の近所の知り合いの方が推進委員になって頂きました。会議では事例報告や防火訓練についてのアドバイス等頂き、サービスに活かしている。	会議では状況報告又困難事例発表を行い意見をユニット会議に活かしている。	2か月に1度開催されており、地域の区長・家族・行政からの参加がある。行事と抱き合わせで開催することもあり、生活の様子を知ってもらうことで、良いアドバイスに繋がるよう工夫されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夏祭りや敬老会の参加を呼び掛け、実情やサービスの取組を直接みて頂くようにしている。広報誌の配布により伝えている。	密ではない。運営推進会議に出席して頂き認定調査等で関係は保たれている。	市の担当者に各行事の案内を行い、都合がつけば参加される。担当者との関係は、良好で相談可能な状況である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為等についてはマニュアルを作成し職員がいつでも見れるようにしている。「身体拘束ゼロ」を続けている。	ユニット会議にて研修を行った。外出願望があられ、職員と一緒に付いていけな状況の時は施錠する事がある。	研修を行い、拘束に関しての共有認識を図るよう努力しているが、時間帯によって職員が少ない時に、短時間ではあるが玄関に施錠することがある。	危険防止を優先した施錠も理解できるが、「あたりまえ」にならないような努力を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にいたり、マニュアルにて学んでいる。月1回のヒヤリハット委員会を行い状況の把握をしている。	自主研修を行った。虐待はしていない。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度を利用される方はおられないが、また自主研修を行いたい。	自主研修を行った。必要な方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、ホーム長が1～2時間程掛けて、家族とゆっくり話をお聞きして説明している。改定の際は文書にて利用請求明細書等と一緒に送付している。	契約時ホーム長より十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用請求明細書に意見要望があれば無記名でいいので意見箱に入れて頂くようしている。直接言える方の意見要望は職員がお聞き出来ることは直ぐ対応している。	意見箱を玄関ホールに設置している。	新たな取り組みとして意見箱を設置したが、現在のところ投書はない。家族の面会時に聞いた意見要望に対しては、全職員が共有し対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のスキルアップの為、全員が勤務として外部研修を受けられるようにしてくれた。	ユニット会議にて聞く機会を設け実践している。	職員が上司(主任や管理者)に対し、意見を言いやすい雰囲気である。職員から研修に関する希望があり、全職員が外部研修を受けれるように業務改善を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットのやりやすいように任せられているため、自分たちで工夫ができる。労働時間はサービス残業がないよう職員が協力し努めている。	研修代は払って貰い1日の勤務となる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のユニット会議にて自主研修を行っている。新人等や力量のばらつきが有っても出来る職員がカバーしたり、実際にケアしている姿をみて学習したり、現場でアドバイスをしている。	研修の機会が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後取組をしていきたい。今交渉中です。	交流は無い。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーや紹介された介護支援専門員等から情報を収集したり、本人からの聞き取りや日常生活の中での会話で職員が知りえた情報は、共通理解して安心して生活して頂ける様取り組んでいる。	必要時に面談を開き対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時にゆっくり話をお聞きして不安な事がないか、要望がないかこちらからお聞きしている。	面会時や月一回のコメント送付で関係作りは出来ている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に本人家族の要望をお聞きすると共に、アセスメントを行って課題を探る。	サービス担当者会議を開いている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を見つけ出し、出来る事は手伝って頂いたり、洗濯物等は入居者の方が取り込むように言われ、家庭の様に過ごされている。	身体介護の方と個性の強い方が多く、関係を築くのが困難になっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや敬老会に招待したり、毎月入居者様の状況報告を行っている。	ホームでの行事(夏祭り、敬老会、トントントン)等に参加して頂いて関係作りを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、床屋に行かれたり、パチンコ(家族の協力で)等に行かれています。	面会時には、環境に配慮を行い、外出時は、自宅や近所の公園にもドライブに行き状態に応じ買い物にも同行して貰っている。	馴染みの美容室や床屋に職員が付き添ったり、行きつけのパチンコ店に家族が連れて行かれたりと地域との関係を大切にしている。また、自宅の近所の方が面会に来られることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由にしたい方は、自由にさせて頂いている方もいるが、仲が良い方でも認知力が違うのでトラブル等があるので、職員と一緒にすることで体操やトランプ等をして楽しく過ごされている。	個性が強い方たちばかりで、スタッフが中に入る事で関係が保たれている。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルにて契約解消となっているが葬儀に出席したり、初盆のお参りに行っている。	特にない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努め、パチンコが好きな入居者の方は家族に協力して頂き毎週土曜日にいかれている。	把握は出来ており本人本位に検討はしてるが、実施はできていない。	日常的に入居者個々の思いや意向を、会話の中から把握するように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い本人、家族からお聞きして全員で把握している。経過については、介護記録やユニット会議にて状況を話し合っている。	サマリーや基本情報作成にて出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・やすらぎ日誌・健康管理表にて把握に努めている。	介護記録ややすらぎ日誌健康管理チェック表で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングを行い、その結果についてユニット会議にて全員で話し合いをし、意見アイデアを出す。その後サービス担当者会議を行い家族の意見を聞きして介護計画を作っている。	モニタリングを行い、スタッフ会議で話し合いサービス担当者会議を行っている。	グループホーム用のアセスメント表を使用しアセスメントを行い、ユニット会議で職員の意見や家族の意向を反映し介護計画を作成している。独自の介護記録を使用し介護計画に沿った記録を行い、モニタリングを行いやすくする工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録、健康管理表や職員の情報により介護計画を見直している。	個別の介護記録、健康管理表、支援経過表に記録し月1回のユニット会議でのケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活リハビリとしてスイミングクラブのコーチがボランティアでストレッチ体操に来てくれている。	多機能なニーズはあまりないが、必要な時はスタッフの早い出勤や居残りを行い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の協力や移動図書館(ブックン)を利用したりして楽しみを持って生活している。	毎月ブックン(移動図書館)の訪問、ボランティア(書道、大正琴、相撲甚句、お茶、ストレッチ体操)支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の承諾を得て、母体の医院が主治医となり健康管理を行っているし、協力病院により訪問眼科医療や訪問歯科診療も行っている。入居者の方のかかりつけの医院の受診も行っている。	理事長にて診られているが必要時家族の了解のもと他科受診行っている。	家族の承認により母体病院の医師が主治医となり、週に一度往診を行い健康管理を行っている。他科受診は、主に職員が付き添っており、受診結果については主治医に報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月～土は母体の加茂医院から看護師が来るので、状態報告をして主治医の指示を受けている。職場内の看護師にも相談・状況報告を行っている。	月～土は加茂医院の看護師の訪問あり。休日看護スタッフ不在時も加茂医院看護師の訪問にて状態を伝え処置時は、看護師にて支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	対象者はおられなかったが、広報誌や、電話にてソーシャルワーカーとの関係作りを行っている。	入院時は理事長の紹介状を持参し、スタッフが付き添い連絡等もお願いし電話を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明して同意を頂く。ターミナルについては主治医が家族に説明を行い、介護職員に指示が出たらユニット会議にて共通理解をしターミナルに取り組む。	契約時ターミナルの指針の説明を行い、重度化した場合は家族へ理事長、看護スタッフより説明行っている。	契約時にターミナルに関する指針を提示し同意書を取っている。現在まで8名の入居者の看取りを行った。職員の精神的ストレスはあるが、振り返ることで日常の介護に活かす様に努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、マニュアルを作り統一している。主治医と24時間連絡がつくので指示を仰ぐようになっている。	定期的な訓練は行っていない。すべて理事長の指示を受けるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所は隣の家の庭を利用できるようになった。消防訓練は職員全員が参加している。今年は利用者も参加して行い反省等もよく分かって今後に活かしたい。	消防訓練を年2回実践を踏まえて行っている。避難場所も確保している。	全職員が参加し、年2回の訓練を実施し、一度は夜間想定で行った。隣家の広い庭を避難場所として利用している。また、地区の消防団や住民の協力を得られるように依頼している。	

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の表情をみて言葉かけが良くなかった時は素直に謝ってそれぞれが反省してそれぞれの入居者の方にあつた言葉かけを行っている。	心掛けてはいるが、つつい大きな声で行動を妨げたりしている。	スタッフが少なく手が離せない時に、大きな声で言うこともあるが、個々の入居者に合った理解できる言葉かけを行うよう努力している。排尿チェック表を利用し、さりげないトイレ誘導を心掛けてはいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけてはいる	話しを傾聴し自己決定して頂いています。	本人の意志をたずね、無理強いはいはしないが後の事を考え言葉かけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援してはいる	自由に過ごしてはいる方もおられるが、何をしたいか分からない方もいるのでその方には、こちらからレクレーション等を行っている。	一人ひとりのペースは把握できている。希望できる方には、その日の行事を伝え判断して貰っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援してはいる	自分で選べる方は好きな服を着ておられる。選ばない方は好みを把握して好きな服を提供するようにしてはいる。	同じ服ばかりの着用はさけ、おしゃれに配慮してはいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしてはいる	食事の時のモニタリングも行って、調理師に報告し作っている。片付けは時々手伝って頂いてはいる。	好みの希望は生かされている。昼食と夕食は一緒にできている。片付けができる方には手伝いをお願いして時々出来ている。	調理師が入居者の希望や好みなどを聞きメニュー作成してはいる。また、食事の後片づけや下準備など出来る範囲で入居者も行っている。楽しい雰囲気ですべてされており、美味しい食事であった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしてはいる	調理師によりバランスの良い食事の提供が出来ている。水分はテーブルにペットボトル麦茶を置き自分のペースで飲んで頂き1日分の飲水量も把握してはいる。	調理師による調理でその人の食される工夫で提供を行いほとんど方が全量摂取されている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしてはいる	毎食後口腔ケアは行っている。自立してはいる方は夕食後磨き残しがないか確認をするようにした。	言葉かけ見守り介助にてその人に応じた口腔ケアを行ってはいる。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間をみて誘導したり、食後にゆっくり座って頂いたりしている。	排泄チェックを行い、時間をみての誘導、介助を行っている。	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し誘導するように工夫されている。また、トイレの中にカーテンがありプライバシーに配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おからヨーグルトを作ったり、野菜の多い料理にしたり、体操をおこなったり、ミルミルを飲まれたしている。	水分摂取、便通の良い食事の工夫を行い、便秘の強い方には個別に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自ら入浴したいと言われる方は少ないのでこちらで誘導している。希望がある方は、シャワー浴をされている。	個々に沿った対応は出来ていない。(全ての方が介助が必要)	1～2日おきには入浴する様に声掛けしているが、拒否される場合は清拭を行っている。希望入浴には対応できる様にしており、畑作業後などシャワー浴をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に馴染みの座イスを持って来られ過ごされたり、2時間毎の巡回により安心されている。熱い時は居室にクーラーを入れると寒くなるので、入口に暖簾をして、廊下から冷気を入れて調節している。	居室ばかりでなく、ソファーや畳の所での休息もされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方に合った服薬の支援を行っている。新しく服薬する時には申し送りを行い、様子観察を職員全員で情報収集している。	個々のファイルに用法用量の説明も貼付しており、いつでも見られる、又服用の工夫も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳むのが自分の仕事と思っておられる方は積極的に頂いている。買い物にお連れしたりしている。	役割は出来られないが、嗜好品のおやつ、歌や言葉遊び、ゲーム電気治療を兼ねてのドライブを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	電気治療の帰りにドライブをしたり、お花が好きだったり、海に行くと落ち着かれる方の為に海を見に行ったりしている。その他にも家族の協力でパチンコに毎週行っている方もおられる。	希望時はシフトの工夫を行い支援を行っている。家族や地域の人との外出は、今現在はほとんどない。	週に1～2回は買い物や通院などで外出し、月に1度は食事・お花見・買い物などで遠出している。また、家族と外泊や外出したり、入居者の希望がある場合には、職員が外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、欲しいものを買っておられる。	ご自分で買い物が出来る方は訪問販売(ヤクルト)を買われるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望がある方は、されている。手紙のやり取りも支援している。	電話はいつでも使用出来ている。手紙は届いているが、こちらは、出す方はおられない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは便所と掲示したり、季節が感じられるような掲示している。リビングの温度は入居者の方に合わせている。日中でもカーテンを閉めたいと要望があれば、優先する事もある。	トイレにはカーテンを利用。プライバシーの配慮。2階のためエレベーター設置。テーブル、ソファ、畳の配慮。季節感のある展示物を行い歩行の妨げにならない配置等工夫している。	リビングは南向きで明るく、壁面には季節を感じられる飾り(入居者の作品など)がされている。また、畳スペースや大きなソファが置かれリラックスできる雰囲気である。庭や畑がありすぐに戸外に出れるようスロープが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と同じテーブルにしている。居室で過ごしたくなられた方は自由に行かれて過ごされている。	ホールにイスの設置、外の方の視線が気にならない所へのイスの配置の工夫		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、座イス、を持ってこられたり、家族の写真を飾っている。	仏壇や使い慣れたケース・タンスを利用されている。	各居室の入口には暖簾がかかっておりプライバシーが保たれている。自宅で使い慣れたタンス等や仏壇を置いたり、写真を飾られており居心地の良い居室作りをされている。電動ベットが必要な入居者には無償で貸し出されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	押し車で移動できる方は、使用して頂き自力で移動されている。視力に障害が有る方もバリアフリーにて安全に自力で歩行されている。	手摺の設置。見やすい所へのトイレの表示。		